問題

二〇二四年度 入学試験問題

(三学部共通) 一般選抜 1期3日目

国語

時間 五〇分

注意事項

- 一. 試験開始の「合図」があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
- 二. 「受験票」は、机の上の受験番号票と並べて置いてください。
- 三. 試験開始・試験終了は、試験監督者の「始め」、「止め」の合図に従ってください。
- 四. この問題冊子のページおよび解答科目は、左の表のとおりです。

科目	問題ページ	備考
国語	1～10	

- 五. 解答用紙が別にあります。
- 六. 「始め」の合図後直ちに、解答用紙に受験番号のみを記入してください。
- 七. 試験室に入室してから試験終了までは退室を認めません。
- 八. 試験中に質問のある場合、または気分が悪くなった場合等には、手を挙げて監督者の指示に従ってください。
- 九. 「止め」の合図後直ちに、筆記を止めてください。
- 十. 退室は監督者の指示に従ってください。「受験票」は持ち帰ってください。

〔I〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

市民たちの相互監視が始まっている。

GWの外出自粛を受けて、県外の車を煽^{あお}ったり、傷をつけたりする事例が出ている。休業
 ①ヨウセイに従わず開業している店舗に落書きをしたり、備品に傷をつけたりする人も出て来
 た。「こういうこと」ができるのは、「そういうことをしても許される社会的な空気」を彼らが
 感知しているからである。今なら「そういうこと」をしても処罰されない、少なくとも「私は
 市民として当然の怒りに駆られてやったのだ」という自己正当化ができる。そうと知ると、「そ
 ういうこと」をし始める人たちがいる。

私は「そういう人たち」をこれまで何度も見て来た。

私たちの社会は「自分がふるう暴力が正当化できると思うと、攻撃性を抑制できない人間」
 を一定数含んでいる。彼ら^(a)がそのような人間であるのは、彼らの責任ではない。一種の病氣
 である。

人間は「今なら何をしてもし処罰されない」という条件を与えられたときにどのようなふるま
 うかを見れば^(b)「正味の人間性が知れる。これは私の経験的確信である。以前^注嫌韓言説について
 私はこう書いたことがある。すでに読んだ人もいると思うが、大切なことなので再録する。

嫌韓言説の一番奥にあるほんとうの動機は「おのれの反社会的な攻撃性・暴力性を解発して
 誰かを深く傷つけたい」という本源的な攻撃性である。「ふだんなら決して許されないふるま
 いが今だけは許される」という条件を与えられると、暴力的・破壊的になることを自制できな
 い人間がこの世の中には一定数いる。ふだんは法律や常識や人の目や「お天道さま^{てんと}」の監視を
 意識して、抑制しているけれども、ある種の「無法状態」に置かれると、暴力性の発動を抑制
 できないのである。

私たちの親の世代の戦中派の人々は戦争のときに^(c)それを知った。ふだんは気のいいおじさ
 んや内気な若者が「今は何をしてもし処罰されない」という環境に投じられると、略奪^{りやく}し、強姦^{ごうかん}
 し、破壊し、殺すことをためらわないという実例を見たのである。戦中派の人たちは、人間は
 ときにとてつもなく暴力的で残酷になれるということを経験的に知っていた。

(中略)

今、新型コロナウイルスの感染が広がる中で、行政が明確な休業指令を出さず、民間の「自
 粛」に委ねてしまったせいで、「自粛に従わないものには市民が処罰を下してもよい」という

口実で暴力行使の正当化をする人たちが出て来た。

これは嫌韓言説に乗じて、市民生活の中では決して許容されないような卑劣で^②シユウアクな攻撃性を発揮していた人たちと「同類」の人々である。「自粛」というあいまいな行政指導は市民たちの相互監視を^③督励する。そして、それは単なる監視にとどまらず、「自粛しない市民を攻撃しても処罰されない」という心証をかたちづくる。

彼らはちゃんと法律が機能し、常識が^(d)有効であり、「世間の目」が光っているときなら、そんなことはしない人たちである。しかし、少しでもその規制が^(e)緩むと、自分の中の攻撃性を抑制することができなくなる。

そのことは例えばSNSで^(f)激しい攻撃的な言葉を書き送る人たちの多くが匿名であることから知れる。彼らは「自分が誰であるかを特定される気づかないときに過剰に暴力的になれる人間」である。

たぶん彼らは「あらゆる人間はそうだ」と思っているのだろう。でも、それは違う。世の中には、「自分が誰であるかを特定される気づかないとき」「処罰されるリスクがないとき」でも「お天道さま」が見ているという自制を失わず、常識的に、ジェントルに、節度をもってふるまう人がいる。「まともな」人たちである。彼らはたぶん「あらゆる人間が自分と同じだ」とは思っていない。(1)、自分はそういう人間であり続けようと思っている。

^(g)この二種類の人たちはいずれも少数派である。おそらくそれぞれ集団の(2)%内外だと思う。残りの(3)%は、この^(h)どちらが優勢であるかによってふるまい方を変える。「どんなことがあっても^④穏やかに、市民的にふるまう人」はいつも同じようにふるまう。それは平時でも非常時でも変わらない。一方、「処罰されるリスクがないときに過剰に暴力的になる人」は「処罰のリスク」という可変的な条件に従って、ふるまい方を変える。まったく違う人間に見えるほど変える。人が変わる。それが可視化されるかどうかは「処罰のリスク」というごく⁽ⁱ⁾散文的な条件によるのである。

「外出自粛」は行政が明確な基準も、それに対するペナルティも示さなかったことによって、この人たちのうちに「今なら人を攻撃しても処罰されない」という確信を醸成した。

今、あちこちで^⑤罵声が聞こえる。スーパーの店員をどなりつけたり、ATMの列で大声を上げている人たちは全員が「自分は社会的な正義を^⑥シツコウしている」と思っている。今なら、どれほど暴力的になっても、それを正当化するロジックがあると思っただけである。だから、止められない。彼らを止める方法は一つしかない。法律が機能し、常識が機能し、「世間の目」が機能するようにしておくことである。

(内田樹『コロナ後の世界』より。ただし、一部改変してある。)

注 嫌韓言説——韓国や韓国人に対して嫌悪感を持った意見や説明。

問一 傍線①・②・⑥のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線③・④・⑤の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線(a)「そのような人間」とはどのような人間か、文章中から三十二字で探し、はじめと終わりの六字を記入しなさい。なお、句読点・記号も字数に数える。

問四 傍線(b)「正味の人間性」とはどのような人間性か、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア ふだんは現れない隠された人間性 イ 表面的ではないほんとうの人間性
ウ 一見ふつうだが味のある人間性 エ いざというときだけに現れる人間性
オ 常識的であり一般的な人間性

問五 傍線(c)「それ」の説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア ある種の「無法状態」に置かれると、誰もが暴力性の発動を抑制できないこと。
イ 「今なら何をしても処罰されない」という環境では、攻撃性が発動されること。
ウ 自己正当化ができると知った人は、当然のように他を攻撃し始めること。
エ 気のいいおじさんや内気な若者が、人を殺すこともためらわなくなること。
オ 処罰されるリスクがないと、過剰に暴力的になる人間が一定数いること。

問六 傍線(d)・(e)・(f)の品詞の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア	(d)	形容動詞	(e)	動詞	(f)	形容詞
イ	(d)	形容詞	(e)	動詞	(f)	形容動詞
ウ	(d)	副詞	(e)	形容詞	(f)	形容動詞
エ	(d)	形容動詞	(e)	形容詞	(f)	動詞
オ	(d)	副詞	(e)	動詞	(f)	形容詞

問七 空欄（ 1 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア よって イ つまり ウ でも エ もしくは オ また

問八 傍線(g)「この二種類の人たち」の説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 自制を失わず常識的にふるまう「まともな」人たちと、「あらゆる人間が自分と同じだ」とは思っていない人たち。

イ 口実をもうけて暴力行使の正当化をする人たちと、正当化できると思うと攻撃性を抑制できなくなる人たち。

ウ 「世間の目」が光っていないと自分の中の攻撃性を抑制できなくなる人たちと、いつも節度をもってふるまう人たち。

エ 「今なら人を攻撃しても処罰されない」という確信をもった人たちと、自分は社会的な正義を成し遂げていると思っっている人たち。

オ 処罰されるリスクがないときに過剰に暴力的になる人たちと、世の中の趨勢すうせきに従ってふるまいを変える人たち。

問九 空欄（ 2 ）・（ 3 ）に入る数字の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア	(2)	50	(3)	イ	(2)	10	(3)	80
ウ	(2)	30	(3)	エ	(2)	10	(3)	90
オ	(2)	20	(3)					

問十 傍線(h)「どちらが優勢であるかによってふるまい方を変える」という態度を表す言葉として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 様子見 イ 目論見もくろみ ウ 無定見 エ 日和見 オ 先入見

問十一 傍線(i)「散文的な条件」とはどのような条件か、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 理想的な条件、普遍的な条件 イ 功利的な条件、打算的な条件
 ウ あいまいな条件、不確実な条件 エ 平凡な条件、ありきたりな条件
 オ 散漫な条件、粗雑な条件

問十二 この文章全体の要旨として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 新型コロナウイルスの感染が広がっても行政が明確な休業指令を出さず、自粛に委ねてしまったことで市民の暴力行使が正当化された。

イ SNSで激しい攻撃的な言葉を書き送る人たちが多くなったのは、匿名であることで自分を特定される気づかいがないからである。

ウ 世の中には、自制を失わず、常識的に、ジェントルに、節度をもってふるまうまともな人たちが一定数いることも事実である。

エ 自分がふるう暴力が正当化できると思うと攻撃性を抑制できない人間は、一種の病気であり彼らの責任ではない。

オ できるだけ法律や常識の目を働かせることで、過剰に暴力的になることを正当化できない世の中にするべきである。

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

明治になってただの^①ガソコ親父が「家長」という特権を民法で与えられる前でも、「家」を代表する人間は一人だった。家長である父が死んだ後には、死んだ男の妻——未亡人が一家の代表権を持てた。未亡人のことをかつては「後家」と言ったのも、彼女に「夫の死後も代表権がある」というニュアンスを持たせてのことだろう。まだ民法というものを存在させず、家のあり方が明確に法制化されない時代なればのゆるさであるが、ではその「家」なるものには、どのような意味と役割があったのか？

大きく分けて、^(a)その役割は二つある。一つは、家の外へ働きに行く男を支える場としての役割。つまり、男社会の成員として働く男を支えるシステムが「家」だった。これは、「役人やサラリーマン家庭で、夫を支えるために専業主婦の妻を存在させる家」と同じものだ。もう一つは、家族や親子が暮らす一家の生計を支える労働の場という役割。一方が勤め人家庭なら、こちらは自営農や零細業者の家。この家は家族労働によって成り立っているのだから、「家」とはつまり、生活の場であると同時に労働の場でもある。「家」が労働の場であることが見えなくなったのは、家族労働を前提とする家が（1）、家の外へ働きに出る勤め人家庭が（2）になってしまった結果なのだ。

奈良、平安時代の貴族は、朝廷に出勤する官僚で、江戸時代の武士もお城へ出勤する官僚だから、この妻となった女性は、夫のために衣服や食事を整え、家を守り、子供を生まなければならぬ。出勤する彼等^{かれら}は「身分」や「階級」を持ち、これは^②世襲制だから、子供がいなければその家は絶えて、^(b)そこに生きていた人間達の現在も消えてしまう。生まれる子供は、男社会である「外」へ出勤して行くから男子である必要があるが、女子であっても上からの許可を得て養子^③婿を迎えれば大丈夫。そして、この時代の人間達は「家」というものを先祖から続けている「家系」そのものだと思って、自分一代の家とは思っていないから、自分が子供を得て現在の家系を絶やさないようにしなければならぬと思っている。江戸時代に女性が離縁される条件——「三年子なきは去る」というのは、この^(c)「家系」の考え方を踏まえていて、嫁に来て三年たっても子供が生まれなかったら、「家の妻としての役割が果たせないじゃないか」ということになっている。「家を代表するのが男で、女はその^④ホカレンテキな役割の従である」というのは、^(d)こういうところに結び付く。

では「家が労働の場」というのはどういうことか？ 昔の自営農は「家族全員で耕作する」というのが基本だから、農家の嫁が家に籠って夫の身の回りの奉仕ばかりを仕事にしているということはありえない。夫や子供、その他の家族と共に野良^{のち}へ出て土を耕し、と同時に家族の食事の仕度その他の家事をする。どうして女ばかりがそれをさせられるのかと言えば、まず初

め「男は外、女は内」という役割分担が決まっていて、更に「男は主、女は従」ということも決まっているから、「女は家事をやり、夫の仕事も手伝う」ということになる。女ばかり働かされているようだが、それは結構「論理的な取り決めの結果」なのだ。「そんな論理的な取り決めがある？」と言っても、まず初めに^(e)大本が決まっているのだから仕方がない。誤解されると困るが、だからと言って私は「昔の本来的な区分に従うべきだ」と言っているわけではない。

そして、平安時代が過ぎて室町時代になれば、勤め人や自営農以外の「物を作って売る」ということをする、商人や職人が登場して来る。当時の市場の大きさからいって、彼等は当然家族経営の零細業者だが、彼等が登場することによって「家⇨労働の場」ということが^(f)「都市でも」成り立つようになる。江戸時代になれば、一番勢いを持つのが^(g)新興勢力の町人——商人や職人だから、そこでの夫婦のあり方も過去とは変わる。

本当に零細な夫婦二人の業者なら、同じ仕事を二人で受け持っているのだから、互に^(h)遠慮のない口もきけるだろう。(3)、工場制手工業のような大規模経営になると、旦那とおかみさんは、それぞれ経営を分担して担当することになるし、もう妻が夫のための衣食住の面倒を見ることもなくなる。その実務は「女中」という名の女の使用人に担当させて、おかみさんはその働き振りをチェックするだけでよいようになる。平安時代の貴族の妻の家事もそのようなものだから、「事業規模が大きくなれば生活様式が貴族に近づく」というのは、別に不思議なことではない。

そして、「家が労働の場」になってしまうと、この「家」に通って働く人間がいなくなる。家が労働の場になってしまうと、そこで働く家族以外の人間は、みんな住み込みで同じ家に暮らすようになるから、「職場へ通う」ということが不必要になる。商業経済が生まれて来る室町時代は、新しく登場した職業を「親方について習う」ということが必要になる。その必然として、「労働の場」は「家」に近づくのだ。

しかし、このあり方は近代的ではない。事業規模が大きくなれば、労働の場は「家の中」で収まりきれないし、ここで働く家族以外の人間達も「家族的⁽ⁱ⁾タイグウ」ではすまなくなつてやがて「企業」「会社」という「赤の他人同士の集合体」になり、ここに男も女も働きに通うようになる。勤め人としてそれぞれが会社に通って働く二人が結婚すると、家の中に「主」となつて外へ出て行く人間が二人になつて、家政を担当する人間がいなくなる。この解決方法は、複数の企業が努力を^(j)することによって家事そのものを不必要なものに変えてしまうか、「二人で均等に家事をこなす」と取り決めをして、結局「どちらか一方が家事をして他方がずるける」という、昔ながらの「男は主、女は従」に戻ってしまうかのどちらかだろう。

(橋本治『父権制の崩壊 あるいは指導者はもう来ない』より。ただし、一部改変してある。)

問一 傍線①・④・⑥のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線②・③・⑤の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線(a)「その役割は二つある」とあるが、どのような役割か、文章中から二十一字と二十七字で探し、それぞれははじめと終わりの六字を記入しなさい。なお、句読点・記号も字数に数える。

問四 空欄(1)・(2)に入る語の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア (1) 減って (2) 日常的
- イ (1) 変わらず (2) 例外的
- ウ (1) 増えて (2) 一般的
- エ (1) 減って (2) 一般的
- オ (1) 増えて (2) 例外的

問五 傍線(b)「そこに生きていた人間達の現在も消えてしまう」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 現在の仕事の立場や生活環境をすべて失ってしまう。
- イ 現在まで先祖から続いている「家系」が途絶えてしまう。
- ウ 現在の家族が一家離散して、それぞれの人生に分かれてしまう。
- エ 現在までの家系は絶えないが官僚ではなくなってしまう。
- オ 現在の「身分」は残るが「階級」は消えてしまう。

問六 傍線(c)「『家』家系』の考え方」とはどのような考え方か、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 「家」は、子供を得ないと自分一代で終わってしまうものである。
- イ 「家」を守り続けていくことが、何よりの先祖孝行である。
- ウ 「家」というものは、先祖から続いている「家系」そのものである。
- エ 「家」とは、衣服や食事を整え出勤に備えるところである。
- オ 「家」の妻としての役割は、子供を生むことではない。

問七 傍線(d)「こういうところ」の説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 女子の子供の場合、上からの許可をとって養子婿を迎えなければならぬこと。
- イ 「三年子なきは去る」が、女性が離縁される条件になっていたこと。
- ウ 夫婦に子供がいなければ、その家は絶えて「身分」や「階級」が消えてしまうこと。
- エ 妻となった女性は、夫のために家を守り子供を生まなければならぬこと。
- オ 嫁に来て三年たっても子供が生まれなかったら、女性から離婚を申し出ること。

問八 傍線(e)「大本」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 農家の嫁は土を耕し、食事の仕度その他の家事もすること。
- イ 自営農の家の場合、家が生活の場であり労働の場でもあること。
- ウ 農家の嫁は、夫の身の回りの奉仕ばかりを仕事にしていること。
- エ 自営農の基本は、「家族全員で耕作すること」であること。
- オ 「男は外、女は内」、「男は主、女は従」ということ。

問九 傍線(f)「(都市でも)」が「()」でくくられている理由として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア ここまでは農村部の家の役割について述べてきたが、ここからは都市部での家の役割に論点が移っていくことを明らかにしたかったから。
- イ 室町時代以前は「家Ⅱ労働の場」ということが成り立ったのは農村だけであったが、都市で成り立つようになったことは歴史的な変化だったから。
- ウ 勤め人や自営農以外の「物を作って売る」ということをする、商人や職人が登場して来た都市部が、それまでの家の役割を大きく変えたから。
- エ 農村部と都市部でもともと家の役割が違っていたが、商人や職人が登場してきたことでそれらの違いがはつきりしなくなったから。
- オ 江戸時代になり、一番勢いを持ち政治にも影響を与えた新興勢力の町人——商人や職人が住んだのが都市だったから。

問十 空欄(3)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア そして
- イ すると
- ウ なぜなら
- エ たとえば
- オ では

問十一 傍線(g)「『家』に通って働く人間がいなくなる」のはなぜか、最も適するものをア〜オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 「物を作って売る」職人が生まれた室町時代は、商業経済も生まれてきて、「家」が「労働の場」だけではなくてきたから。

イ 事業規模が大きくなると労働の場は「家の中」で収まらなくなり、ここで働く家族以外の人間達を家族のように扱えなくなったから。

ウ 職人は「親方について習う」ことが必要になるので、弟子は親方が住んでいる都市部に住まざるを得なかったから。

エ 「家が労働の場」になってしまい、そこで働く家族以外の人間は、みんな住み込みで同じ家に暮らすようになるから。

オ 労働の場が「企業」「会社」という「赤の他人同士の集合体」になり、ここに男も女も働きに通うようになっていったから。

問十二 傍線(h)「する」の活用形として最も適するものをア〜オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形 オ 仮定形